

宮崎女子短期大学における 幼稚園・保育所実習に関する調査研究(4)

佐々木 昌 代

Survey and Research on Miyazaki Women's Junior College Interns in Kindergarten and Nursery Teaching (4)

Masayo SASAKI

I. はじめに

平成7年度より、保育科実習指導体制の自己評価の一環としてアンケート調査による学生自身の自己評価を取り入れて、7年目である。学生がふと洩らす疑問や不満、たとえば「希望の実習園に行けなかった」「もっとゆっくり実習園を選びたかった」等々、にも耳を傾けて実習指導に当たるべきではないかという素朴な発想からはじまった調査研究ではあるが、毎年の積み重ねから多くの気づきや反省を得た。思いがけず、学生達の多様な学びや思いも知ることができた。そこで、この辺りで、これまでの気づきや反省をあらためて振り返ってみたいと思う。

さて、保育科の36年におよぶ歴史に比較すれば、アンケート調査を開始してからの数年などはわずかな期間であるが、この間の保育科と保育科を取り巻く社会状況の変化は決して小さいものではなかった。さらに、「少子化」「構造改革」といった昨今の社会情勢を反映して、本学保育科の置かれた教育環境は今後も厳しさを増す一方のようである。分けても、学生の実習受け入れ先であり、就職先でもある福祉・保育の現場からは、規制緩和や利用者ニーズの多様化に合わせて、質の高い保育者の養成がこれまで以上に要求されるであろう。

そのような厳しい状況に対応する方策の一つとして、学生にとってよりよい実習ができる環境をどのように整えていくべきかを求め、学生の自己評価アンケートから一つひとつ問題点を洗い出して、実習指導改善の歩みをすすめてきた。しかしながら、ここに至って、部分部分について点検・評価して一歩ずつあらためていくというような見直しでは、実習指導が立ち行かなくなってしまうのではないかと、すでに立ち行かなくなっているのではないかと危惧するようになった。なぜなら、学校の外側で起きている変化以上に、内側すなわち本学保育科に入学してくる学生達の質の変化が著しいからである。保育者を目指して実習にのぞむ姿勢や意欲は言うまでもなく、実習以前の日常の学校生活で見せる今時の学生気質に、もっと根本的な実習指導体制の見直しが必要なのではないかと思われてならない。

当然のことながら、本調査研究もこれまでの延長線上に漫然と反復していくのでは継続の意味がなくなってしまう。発想の転換を図って、アンケート調査の思い切った刷新に取り組まなければなら

らないと考えている。

よって、本稿では、平成11～12年度に実施した学生アンケート調査について報告するとともに、これまでの幼稚園・保育所実習に関する調査研究(1)～(3)をも含めた本調査研究の総括を述べる。

II. 目的・方法

平成11年度および12年度に行われたすべての実習を対象とするまとめの「保育・教育実習についてのアンケート」調査を実施し、保育所・幼稚園実習について、学生の自己評価を分析・検討することから、これまでの実習指導のあり方を再考するとともに、今後の実習指導のあり方を求める。

アンケート調査は、以下の実習を調査対象として、平成11年度については学年末試験最終日に、平成12年度については授業最終週のガイダンス・アワーにおいて、それぞれ実施した。

<「保育・教育実習についてのアンケート」調査の対象とした実習>

A. 保育所実習（保育実習Ⅰ）	1年次 2月	必修単位
B. 幼稚園実習（教育実習）	2年次 6月	必修単位
C. 施設実習（保育実習Ⅰ）	2年次夏季休業中	必修単位
D. 保育所実習（保育実習Ⅱ）	2年次 11月	必修単位
E. 施設実習（保育実習Ⅲ）	2年次 12月	選択単位

※ 本稿では、A. 保育所実習（保育実習Ⅰ）、B. 幼稚園実習（教育実習）、D. 保育所実習（保育実習Ⅱ）について分析・検討の対象とした。

C. 施設実習（保育実習Ⅰ）およびE. 施設実習（保育実習Ⅲ）については、あらためて報告する。

また、平成12年度の質問紙作成に当たっては、平成11年度の調査結果並びに平成12年度に実施した施設実習に関するアンケート調査の結果を踏まえ、若干の修正を行った。実習全般を見通したまとめ・感想を聞く項目で、学生の実習における学びや思いがよりはっきりと記述されるように「実習に取り組んで、特に気付いたことや感じたことがあれば書いてください」から「すべての実習をやり終えて、自分は保育者としてどのように成長し、何が身に付いたと思いますか」にあらためた。

アンケート調査の回収率は、平成11年度は98.4%（対象学生185名から182名回収）、平成12年度は97.9%（対象学生193名から189名回収）であった。

III. 結果

表1 1998年度実習別アンケート「目標」

A 1年次2月の保育所実習（保育実習Ⅰ）

- ・積極的に多くの子どもと関わり、たくさん楽しく遊ぶ。
- ・楽しく触れ合い、観察することで、子どもを理解する。
- ・保育者を観察し、言葉かけや援助の仕方を学ぶ。

B 2年次6月の幼稚園教育実習

- ・一人ひとりの個性を見つけ、その場にあった言葉かけをする。
- ・個々の子どもに応じた、その場に応じた言葉かけや援助の仕方を考える。
- ・一人ひとりと接して性格を把握して、的確に対応できるように心掛ける。

D 2年次11月の保育所実習（保育実習Ⅱ）

- ・子どもの個性や特徴、年齢にあった言葉かけや援助を学び、実践する。
- ・子どもの興味・関心、何ができるか、どう心を掴むかを考えて、研究保育に生かす。
- ・子どもと接するなかで、月齢差や個人差、その日の体調などによって援助や配慮をどうするか考える。

表2 1999年度・2000年度実習全般アンケート「目標」

A 1年次2月の保育所実習（保育実習Ⅰ）

保育所の一日の流れ、子どもたちの姿、保育者の仕事、子どもと保育者との関わり等々について、よく観察して保育現場の実際を知る。

- ・子どもの遊ぶ姿を一步引いて全体を観察する。
- ・保育所が送っている一日を理解し、子どもとの接し方を先生の様子から勉強する。
- ・保育所の流れを知り、たくさん子どもと関わり、保育者の仕事と子どもを知る。
- ・保育所の一日の流れを掴んだり、仕事を知りながら、子どもたちと接する。
- ・子どもたちに積極的に声をかけ、先生方の援助や指導を観察し、自分のものにする。

B 2年次6月の幼稚園教育実習

保育所との違いを掴み、研究保育をやり遂げる。同時に、研究保育に向けた教材研究と、考えて準備した手遊びや読み聴かせなどの保育技術を子どもたちの前で試みることから子どもの発達段階（興味、関心、能力など）を具体的に把握するとともに、援助や指導の実際を学ぶ。

- ・年齢別にどの段階までできるか、活動の援助や配慮はどのようなものがあるか学ぶ。
- ・幼稚園の一日の流れと保育所との違いを理解し、研究保育に力を入れる。
- ・保育所との違いを観察し、研究保育に向けた教材研究をしっかりとる。
- ・手遊び、紙芝居などを重視し、クラスに入って数多く取り組み、研究保育へと臨む。
- ・幼稚園と保育所の違いを知り、実際に子どもの前に立って保育することを学ぶ。
- ・生活の流れを把握し、心を掴めるような遊びを考えて試し、どこまでやれるか観察した。

D 2年次11月の保育所実習（保育実習Ⅱ）

これまでの実習経験を生かして、一人前の保育者として、子どもの立場に立って子ども一人ひとりに対応した保育の実践を目指して、自分のすべてを出し切る。

- ・一人ひとりを見極め、一方的に展開せず、子どもの意見や提案を織り混ぜる。
- ・これまでの実習を生かし、保育という仕事の手応えを感じられるように、全力投球する。
- ・保育のポイントを学びながら、前回の実習の反省をもとに、保育をやってみる。
- ・子どもたちとたくさん関わり、色んな問題とぶつかり、一緒に成長できるような実習にする。
- ・一人の保育者として認められるよう、責任を持ち、これまで学んできたことを精一杯出す。
- ・保育者として保育する。

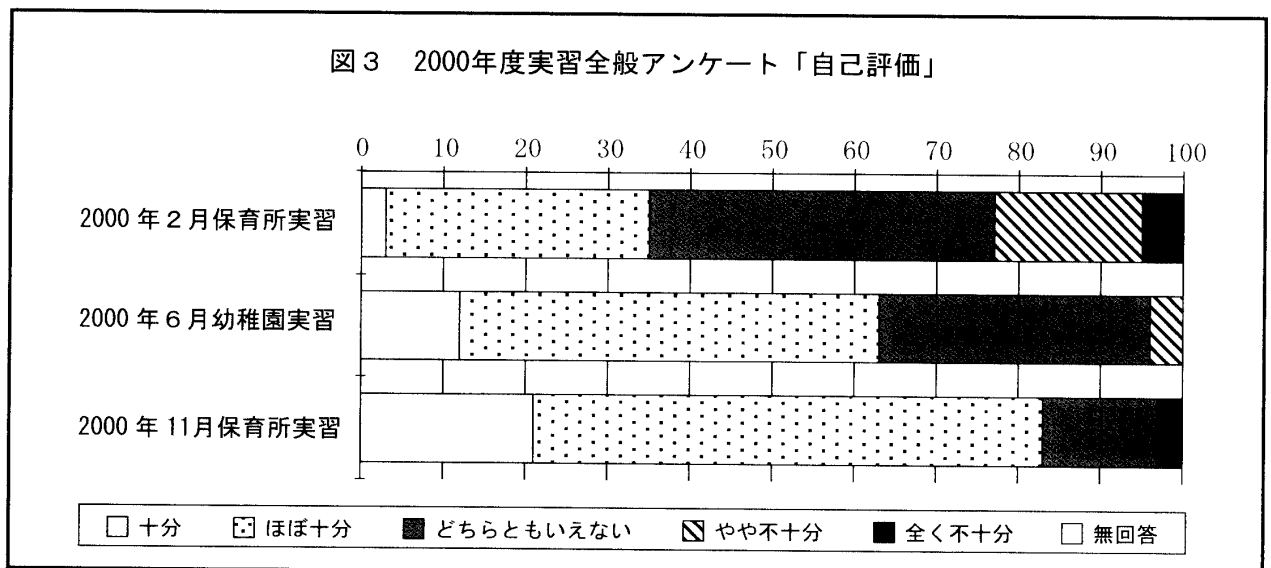
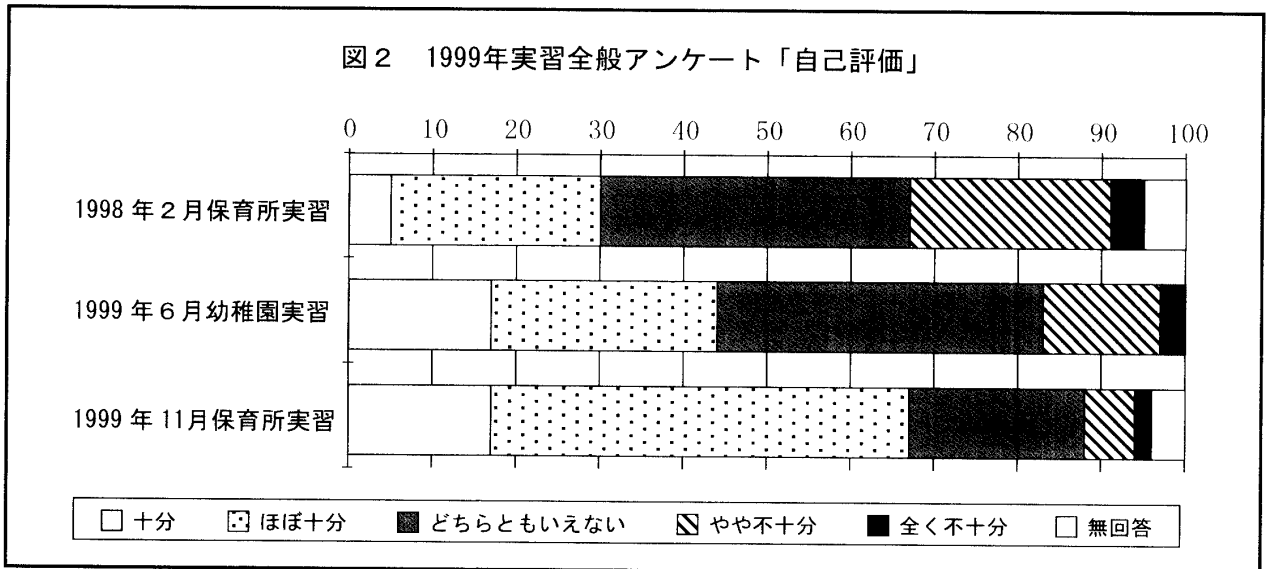
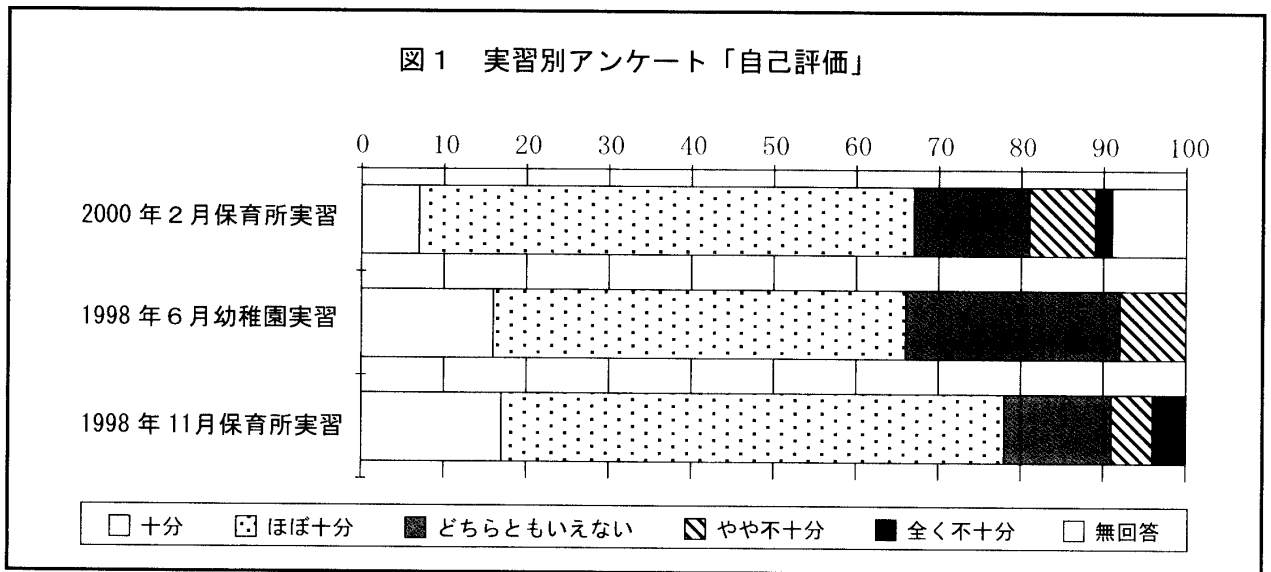
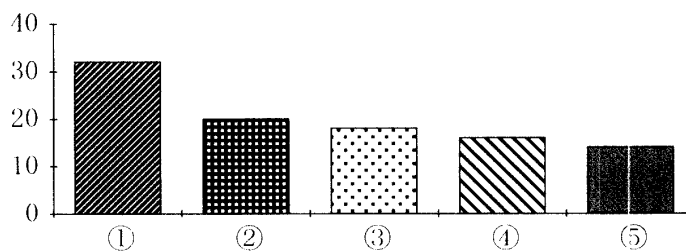


表3 2000年度実習全般アンケート「すべての実習をやり終えて」

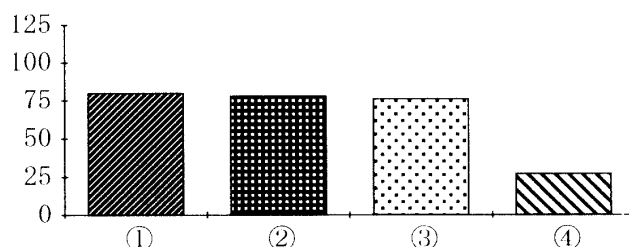
- ・ 施設実習で障害者と関わって、障害者とも子どもたちとも心から接して一人ひとりの違いを理解し、人真似でない自分の特性を生かした、自分なりの保育をすることが本当に関わることだと思った。
- ・ 子どもには未熟な面もあるけれど、一人の人間としての人格を見出してあげることが子ども理解の最も大切なことだと思った。子どもの目線に立って話すことができるようになったかなとも思う。
- ・ 自分に自信を持たなければ子どもたちはついてきてくれない。自分が何をしなければいけないのかを常に意識して行動できるようになった。一人の保育者として扱われ、社会勉強にもなった。
- ・ 「何が身に付いたか」と言われると困るが、人間として成長できたと思う。保育者としての在り方や子どもとの関係の持ち方など内面的な部分の成長が大きかった。社会人としてのルールも学べた。
- ・ 子どもが自立に向けて努力する姿を傍らで応援していく、待つことの大切さを知った。子どもばかり見ている、保育者の保育する姿をあまり見ていなかった。今何をすべきかを考えることを学んだ。
- ・ どの実習でも自分のだらしなさがでて、早急に性格改善しなければと思った。成長していないように感じるが、1年生の質問に皆が答える時間があって、その質問に答えている自分に気づき、何かは身に付いたのかなとびっくりした。子どもたちへの愛情だけは強くなった。

図4 ガイダンスアワー 特に良かった内容（2年生）



- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ① クラスのクリスマス会 | ② 幼稚園教育実習後の体験発表・意見交換会 |
| ③ 1, 2年生合同の実習体験発表・交流会 | ④ 実習前指導 |
| ⑤ 実習に向けたガイダンス | |

図5 ガイダンスアワー 実習の参考になった内容（1年生）



- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| ① 幼稚園、保育園見学 | ② 保育所実習に向けた事前準備・意見交換会 |
| ③ 1, 2年生合同の実習体験発表・交流会 | ④ 福祉職・保育職オリエンテーション |

Ⅲ. 結果について

(1) 目標設定

これまでの実習終了ごとにアンケート調査を実施して分析・検討をするという調査からは、例えば表1に示したように、学生は実習ごとに目標を設定し、その目標を判断基準として学生なりに真摯な自己評価を行っていることを確認することができた。しかも、その自己評価は、実習園に対して実施したアンケート調査の結果や成績評価票に記載された評価と比較しても、概ね妥当なものであることも検証することができた。

今回、平成11年度からは、FD活動の一環として2年間の学生生活全般について学生の満足度を測るアンケート調査が実施されたのに倣って、実習についても、すべての実習を対象とするまとめの「保育・教育実習についてのアンケート」調査をはじめた。すると、それまでの個別の実習を対象とするアンケート調査からは得ることができなかった学生達の目標設定や評価基準の実態を、思いがけず、見いだすことができた。

個別のアンケート調査では、回答された目標に少なからず重複する内容があったが、まとめのアンケート調査では、そのような重複が整理されて、個々の実習においてもっとも中心的な目標が比較的簡潔に回答されていた。その内容を集約してみると、学生が、実習ごとに独立した目標を設定しているのではなく、実習体験の積み重ねを意識して段階的に目標を設定している様子が見えてきた。表2にもっとも特徴的な目標内容を示したが、ほとんどの学生は、学生なりに実習経験の積み重ねや学びの蓄積を意識して目標を設定している。A. 保育所実習（保育実習Ⅰ）ではよく観察することから保育現場の実際を知り、B. 幼稚園実習（教育実習）では準備していった保育技術を試みることから子どもの発達段階と援助・指導の実際を学び、D. 保育所実習（保育実習Ⅱ）では一人前の保育者として保育に挑戦するためにそれまでの学びを出し切る、といった具合である。

その一方で、どの実習においても「子どもの名前を早く覚える」、「健康に気を付けて最後までやり通す」といった初歩的・基本的な目標設定に終始する学生も、これまでの調査同様に、散見された。

(2) 自己評価

自己評価についても、目標設定と同様に、まとめのアンケート調査では、実習体験の積み重ねを意識した段階的な相互評価が加味されていた。

個別アンケートの自己評価では、図1のとおり、保育所実習（保育実習Ⅰ）、幼稚園実習、保育所を除く児童福祉施設で実施される保育実習（以下、保育所で実施される保育実習と区別して、施設実習と略称する）ではおおよそ7割の学生が「十分」「ほぼ十分」目標が達成されたよい実習であったと回答し、最後の必修の実習であり実習全般の総括的実習と学生が意識する保育所実習（保育実習Ⅱ）ではおおよそ8割の学生が「十分」「ほぼ十分」と回答する。この割合は、アンケート調査の実施年度に関わらず、概ね大差ない調査結果である。

まとめのアンケートでは、図2、図3のとおり、すべての実習を終えた見地から、保育所実習（保育実習Ⅰ）、幼稚園実習について、いささか厳しい評価を行っている。その時点では持てる力で精一杯頑張ったが、実習を積み重ねた分だけ未熟だったことが理解されるはじめての保育所実習が

ら、幼稚園と保育所以外の児童福祉施設を経て、二度目の保育所実習を終え、学生自身が保育者としての成長を自分なりに認め、実習をやり遂げた充実感、満足感を覚えているものと思われる。

しかしながら、最後の保育所実習（保育実習Ⅱ）についてまで、極めて若干名ながら、「やや不十分」「全く不十分」と回答する学生が存在することは問題である。初歩的・基本的な目標設定に終始する学生とともに、特に抽出して追指導を行う必要があるだろう。この意味で、アンケート調査は集計に拘らず、学生一人ひとりの個別の案件に対応する手段としても活用すべきである。

これらのことは、実習指導担当者として大いに反省させられた。実習体験による学びの蓄積即ち学生の保育者としての成長ぶりを認識しつつ、明確な目標を持って実習にのぞむように求めながら、学生が2年間に体験する実習全般を見通して実習指導に当たるという視点が不十分であったことに気付かされた。

まして、実習の評価すなわち後始末についての指導は、全く不十分であったと反省するほかない。学生にはしっかりと後始末をして次の実習に繋ぐように指示しながら、実習指導担当者として実習後指導の充実を見送ってきた。たとえば、実習終了後ごとに提出される記録簿を読み、保育者としての著しい成長ぶりに感嘆しながら、そのことを十分に学生に伝えてきたらどうか。学生が実習を通して体験してきたことをしっかりと受けとめる機会を設ける努力をしてきたらどうか。実習先の評価も踏まえながら、学生の自己評価に寄り添い、実習での学びや思いが確かな成果や明らかな次への課題となるような実習後指導体制を整えなければならない。

(3) まとめ・感想

実習後指導の必要性は、回答欄に収まらずアンケート用紙の余白や裏側にまでびっしりと思いのたけを「すべての実習を終えて」として綴っている、まとめ・感想の記述内容の見事さからも大いに感じられた。

これまでの個別アンケートの具体的記述回答からも、実習をやり遂げた学生の思いや学びは、一人ひとりについてみていくと過不足があるものの、総体としては期待以上の豊かな内容であることが認められたが、まとめのアンケートのまとめ・感想の記述からは一人ひとりについてみても実に豊かな内容であることがわかった。

表3に2000年度（平成12年度）について要約したまとめ・感想の内容を示したが、具体的な実習や保育については言うまでもなく、あらためてじっくりと自分自身を見つめ、「保育者としてのあり方」、「人間として、社会人としての成長」、「これからの目標・課題」等々、それぞれになかなか深い省察がなされている。さらに、不思議なことに、記述全体をクラスごとに集約していくとある傾向が浮かんできた。たとえば、哲学を担当する教員のクラスでは、実習体験から自分自身を自省する記述内容が多くみられた。社会福祉を担当する教員のクラスでは、福祉や保育についての学生なりの意見や疑問が多々書かれていた。保育現場を熟知する教員のクラスでは、多くの学生が子どもとの関わりからの気付きや理解から記述をはじめていた。統計的に有意にそのようであったとは言いつてもいいので、ここでは紹介するに留めなければならないが、クラス担任の教員としての姿勢や教育方針、専門性といったことがクラスの学生達にとって決して小さなものではないということは記しておきたい。

この一人ひとりの豊かな思いと学びを、実習後指導を通して、学生相互に伝え合ってより豊かな内容にしなければならない。何より、謙虚で自重した表現からうかがえる不確かさを確固とした確信に育てたい。これまで以上に、一人ひとりの思いや学びを相互に共有化して、より豊かに膨らませることを意図した、学生が互いに実習体験を発表・意見交流する場を、実習後指導として設定しなければならない。加えて、記録簿やアンケートに書き表すことができなかつたこと、取り分け、納得できなかつたことや辛かつたこと等々について、教員が一对一の面接などで対応することも提案していきたい。

また、先に説明したように、まとめ・感想を聞く項目について質問する表現を「実習に取り組んで、特に気付いたことや感じたことがあれば書いてください」から「すべての実習をやり終えて、自分は保育者としてどのように成長し、何が身に付いたと思いますか」にあらためたところ、回答の内容に大きな違いがみられた。これも、前年度の記述から気付かされたことであるが、実に、引き出すということの大切さと難しさが思われる。学生の自己評価から何を知ろうとしているのかという目的意識を明確に持って、これからのアンケート調査においては、曖昧な質問を学生にぶつけないように慎重な問いかけを心掛けたい。

IV. まとめ

はじめに述べたように学生達の質の変化が著しく、そのドライとでも表現すべき学生気質に戸惑うことが多く、つつい実習指導においてもいわゆる注意事項を連発しがちである。しかし、前項で考察したように、実習における学生の学びや思いはドライさとは無縁のような見事な内容であり、指導する側の引き出し方の如何によって、学生は実習に対する素直で率直な自己評価を披露してくれる。そこに、学生自身と実習体験が拓く可能性という希望を見いだして、とても救われた境地になる。実習指導体制の点検・評価にアンケート調査による学生の自己評価を取り入れることの意味は、単純に、この救われた境地にあるのかもしれない。

学生のアンケート調査からは多くのことを教えられた。調査の都度、点検・評価によって得られた改善のポイントを翌年度以降の実習指導に反映させ、改善の実もあったと自負している。たとえば、ガイダンスアワーの開始によって保育科が導入した1年次の幼稚園・保育園見学、2年次幼稚園実習終了後の体験発表・意見交換会、1・2年生合同実習体験発表・意見交流会などは、いずれは客観的な立場からの点検・評価を行わなければならないが、直接指導に当たった教員や学生の記録・感想からは予想以上の好評を得た。

さらに、平成12年度には、これまでも必要性を認めながら実施を見送ってきた、施設実習について、学生の自己評価アンケートによる点検・評価を行った。その調査結果については、『宮崎女子短期大学における保育実習に関する調査研究(1)―保育所を除く児童福祉施設で実施される―』で報告したが、保育者養成における施設実習の存在意味と重要性を、あらためて、学生が記述する実習のまとめ・感想から認識することができた。

同時に、これまでの施設実習の実習前指導においては、学生のニーズに対して適時・適宜な情報が十分に提供されていなかったのではないか、施設実習の存在意味に関わってその目的意識を学生が確かに持ちうるような働きかけが不足だったのではないか、といったことなども反省された。言

い換えると、実習前指導において、学生を受け身の状態に置き過ぎていたのではないかということである。このような反省は、施設実習に限らず、保育所実習・幼稚園実習についても振り返ってみるべきであることが、まとめのアンケート調査からより明確になった。

これらの反省をあらたな視点として、一歩引いて、保育科の実習指導について見直してみると、懇切かつ丁寧な実習指導を目指して改善に改善を積み重ねてきたこと自体が振り返ってみるべきことの第一であったのではないと思われる。学生が主体的に取り組むように種々工夫し改良してきたことが、逆に、学生の主体性を奪ってきたのではないかという危惧が、学生の自由記述をくり返し読むごとに大きくなる。その期待以上に見事な内容が、教員が設定した枠を超えて一人ひとりの学生が全く自由に学び、考えたところから記述されているからである。主体的という方向性を示しても、それがあくまでも教員によって設定された場である限り、学生が自ら創造的に設定する場とはなり得ないのかもしれない。

ここで、1・2年生合同実習体験発表・意見交流会などの学生相互の意見交流の場について、参考に掲載したガイダンスアワーに関するアンケート調査の結果である図4、図5からみる。2年生では、実習前後指導の一環として企画された種々の内容を押さえて、クラスのクリスマス会が最もガイダンスアワーの内容として良かったと評価されている。1年生では、1・2年生合同実習体験発表・意見交流会や福祉職・保育職オリエンテーションといった、実習をやり通した先輩達の体験談や実習のノウハウ、現場を熟知した卒業生の豊かな経験談や講話よりも、まだ実習未経験のクラスの学生同士の保育所実習に向けた事前準備・意見交換会のポイントの方が高かった。学生自身がより能動的な立場で、企画の自由度が高い内容に良い評価が集まっている。どんなに素晴らしい内容が聞けたとしても、聞く側の受動的立場にとどめ置かれるより、自分達が意欲的に企画、実行できる能動的立場に立つことを学生は望み、評価するようである。

当初はクラスの親睦会として企画されたクラスのクリスマス会が、いつのまにか、自然に、それまでの保育科での学習のまとめ、実習報告会のようなものになってしまっていた。そのまま、幼稚園や保育園のクリスマス会の運営にも応用できそうな内容まで加味されていた。指導したクラス担任は勿論、ひょっとしたら学生達自身も予想外の学習発表会への発展だったのかもしれない。道筋のないところ、枠にはまらないところで、思いがけない広がりや深まりが展開する、如何にも保育を学ぶ学生らしい境地を認めるとともに、学生を信じて任せることからの育ちや成長の確かさを痛感させられた。

学生のアンケート調査から見えてきたもの、認めなくてはいけないものの最たるものとは、学生を受け身に置き過ぎないということであった。過年度のアンケート調査から見つかった不十分な点の対策として指導内容を一つ補い、注意事項を一つ追加する、そのような積み重ねによって学生が自ら問題を見つけ、考え、判断する余地を狭めてきたように思われる。

これまでの改善に改善を重ねるといふ足し算方式一辺倒を見直して、効果の認められなかった指導は勇気を持って取りやめるといふ引き算方式も取り入れ、学生の自由度を拡大して学生自身に任せ考えさせる過程を充実させ、真に学生が満足して取り組める実習環境が整備できるように柔軟な加減乗除の改善こそすすめたい。さらに、それによって意欲に溢れた学生が育ち、実習先即ち就職先が求めるより質の高い保育者養成が実現することを信じる。

参考文献

- ・ 「教育・保育・施設実習の手引」松本峰雄編著，建帛社，1998
- ・ 「教育・保育・施設実習書」三階堂邦子他，建帛社，1999
- ・ 「宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に関する調査研究(1)」山田康彦，林田勇蔵，濱田芳子，佐々木昌代，宮崎女子短期大学紀要第22号，1996
- ・ 「宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に関する調査研究(2)」林田勇蔵，濱田芳子，佐々木昌代，宮崎女子短期大学紀要第23号，1997
- ・ 「宮崎女子短期大学における幼稚園・保育所実習に関する調査研究(3)」濱田芳子，佐々木昌代，宮崎女子短期大学紀要第26号，2000
- ・ 「宮崎女子短期大学における保育実習に関する調査研究(1)ー保育所を除く福祉施設で実施されるー」大坪邦資，濱田芳子，佐々木昌代，宮崎女子短期大学紀要第27号，2001

<質問紙>

保育・教育実習についてのアンケート

保育・教育実習の現状を把握・改善するために実施する調査です。できるだけ丁寧に、思うところを正直に書いてください。当てはまる□には、○印を書き入れてください。協力をお願いします。 保育科実習指導係

保育科 クラス () 学籍番号 () 氏名 ()

1 いずれの実習を履修しましたか。

- | | | | |
|------------------------------|-------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| ① 保育実習Ⅰ（1年次2月の保育所実習） | <input type="checkbox"/> 履修した | <input type="checkbox"/> 履修しなかった | <input type="checkbox"/> これから履修する |
| ② 幼稚園教育実習 | <input type="checkbox"/> 履修した | <input type="checkbox"/> 履修しなかった | <input type="checkbox"/> これから履修する |
| ③ 保育実習Ⅰ（2年次夏の保育所以外の児童福祉施設） | <input type="checkbox"/> 履修した | <input type="checkbox"/> 履修しなかった | <input type="checkbox"/> これから履修する |
| ④ 保育実習Ⅱ（2年次11月の保育所実習） | <input type="checkbox"/> 履修した | <input type="checkbox"/> 履修しなかった | <input type="checkbox"/> これから履修する |
| ⑤ 保育実習Ⅲ（2年次12月の保育所以外の児童福祉施設） | <input type="checkbox"/> 履修した | <input type="checkbox"/> 履修しなかった | |

2 1年次夏季休業中に、自主実習にいきましたか。

自主実習にいった → 以下の質問に答えてください。

いかなかった

(1) どこにいきましたか

実習先の保育所 実習先ではない保育所

実習先の幼稚園 実習先ではない幼稚園

その他 → 具体的に () その他 → 具体的に ()

(2) どれくらいの期間いきましたか

1週間未満（～4日間） 1週間程度（5～7日間）

1週間以上（8日間～）

(3) 保育実習や教育実習に備えて、自主実習にいつてよかったですか。

よかったと思う

わからない

よかったと思えない

3 どのような目標を持って、それぞれの実習に取り組みましたか。

① 保育実習Ⅰ（1年次2月の保育所実習）

明確な目標を持って取り組んだ → 具体的に 特に明確な目標を持って取り組まなかった

② 幼稚園教育実習

明確な目標を持って取り組んだ → 具体的に 特に明確な目標を持って取り組まなかった

③ 保育実習Ⅰ（2年次夏の保育所以外の児童福祉施設）

明確な目標を持って取り組んだ → 具体的に 特に明確な目標を持って取り組まなかった

④ 保育実習Ⅱ（2年次11月の保育所実習）

明確な目標を持って取り組んだ → 具体的に 特に明確な目標を持って取り組まなかった

⑤ 保育実習Ⅲ（2年次12月の保育所以外の児童福祉施設）

明確な目標を持って取り組んだ → 具体的に 特に明確な目標を持って取り組まなかった

4 3のような目標を持って取り組んだ自分の実習を自己評価してください。

① 保育実習Ⅰ（1年次2月の保育所実習）

ア. 実習全体を総合的に評価すると

- 5：たいへんよくできた(90～)：十分 □4：よくできた(80～89)：ほぼ十分
 □3：できた(66～79)：どちらともいえない □2：あまりできなかった(60～65)：やや不十分
 □1：まったくできなかった(59～)：全く不十分 □0：わからない

イ. 幼児理解について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

ウ. 保育指導・援助について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

エ. 実習記録簿について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

オ. 実習を終えて保育士になりたいと思いましたか

- 5：とてもなりたいたと思った □4：ややなりたいたと思った □3：どちらともいえない
 □2：あまり思わなかった □1：まったく思わなかった

② 幼稚園教育実習

ア. 実習全体を総合的に評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

イ. 幼児理解について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

ウ. 保育指導・援助について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

エ. 実習記録簿について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

オ. 実習を終えて幼稚園教諭になりたいと思いましたか

- 5：とてもなりたいたと思った □4：ややなりたいたと思った □3：どちらともいえない
 □2：あまり思わなかった □1：まったく思わなかった

③ 保育実習Ⅰ（2年次夏の保育所以外の児童福祉施設）

ア. 実習全体を総合的に評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

イ. 入所児・入所者理解について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

ウ. 保育指導・援助について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

エ. 実習記録簿について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

オ. 実習を終えて施設の職員になりたいと思いましたか

- 5：とてもなりたいたと思った □4：ややなりたいたと思った □3：どちらともいえない
 □2：あまり思わなかった □1：まったく思わなかった

④ 保育実習Ⅱ（2年次11月の保育所実習）

ア. 実習全体を総合的に評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

イ. 幼児理解について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

ウ. 保育指導・援助について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

エ. 実習記録簿について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

オ. 実習を終えて保育士になりたいと思いましたか

- 5：とてもなりたいたと思った □4：ややなりたいたと思った □3：どちらともいえない
 □2：あまり思わなかった □1：まったく思わなかった

⑤ 保育実習Ⅲ（2年次12月の保育所以外の児童福祉施設）

ア. 実習全体を総合的に評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

イ. 入所児・入所者理解について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

ウ. 保育指導・援助について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

エ. 実習記録簿について評価すると

- 5 □4 □3 □2 □1 □0

オ. 実習を終えて施設の職員になりたいと思いましたか

- 5：とてもなりたいたと思った □4：ややなりたいたと思った □3：どちらともいえない
 □2：あまり思わなかった □1：まったく思わなかった

6 すべての実習をやり終えて、自分は保育者としてどのように成長し、何が身に付いたと思いますか。